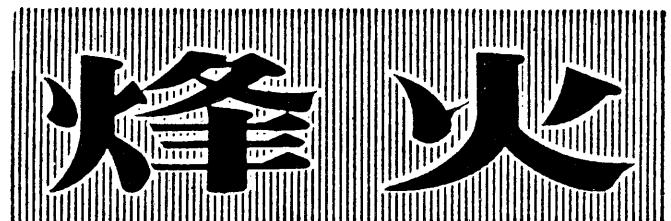


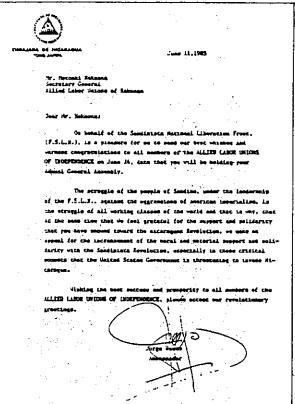
★帝国主義の侵略反革命を粉碎し全世界の帝国主義を打倒せよ！ スターリン主義との国際党派闘争を組織し、世界プロレタリア革命—世界プロ独立共産主義を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

1985年
7月20日
第363号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
○郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
■ 沖縄 那覇東郵便局 私書箱 2016号



六月二十四日、京労実闘争に
サンディニスタ民族解放戦線
(FSLN) を代表して寄せ
られた駐日ニカラグア共和国
大使 ホルヘ・ウェソ氏から
のメッセージを機関紙局の責
任で転載する。

ニカラグア革命に 精神的・物質的援助と連帯を

私は、あなたがたが集会を開催されている六月二十四日、サンディニスタ民族解放戦線(FSLN)を代表して、すべての参加者の皆さんに、強い願いと熱い祝福とを送ることをうれしく思います。

アメリカ帝国主義の侵略に対する、FSLN主導下のサンディニーノの人民の闘争は、世界の全労働者階級の闘争です。そうだからこそ、私達は、あなたがたが、ニカラグア革命にたいして、示してくれた援助と連帯に深く感謝すると同時に、合衆国政府による侵略の脅威が高まっているこのように、いつもサンディニスタ革命への精神的、物質的援助と連帯を強めていただくことを訴えるものです。

すべての集会参加者の皆さんへ、集会の大成功と発展を願い、革命的なあいさつを送ります。

ニカラグア共和国駐日大使 ホルヘ・ウェソ

ブルジョア政党に転落する社共を打倒し プロレタリア政治闘争の爆発を



ニカラグアへの国際連帯誓う（6月24日 京都・シルクホール）

いまこそ、日帝の侵略反一に向けた「全的統一構想案」をうち出し、産業報国会への道に合流せんとしている。この日帝—既成左翼の動向は、「新たな戦前」と呼ぶにふさわしいものである。

既成左翼は社会党に典型なように「保革連立」になだれこみ、また総評も労戦統力年計画」というペテンでとめどない軍備増強を行なわんとし、他方、教育臨調や教科書への日帝の介入を通じてファシズムの育成をねらっている。日帝—ブルジョアジーのふりまく、不況から好景気への転換は、世界資本主義の矛盾の解決ではなく、資本主義の危機の先送りでしかない。この矛盾は、必ず極限にまで達せざることをつきつけ、国際主義をもちこむ以外にどうして日帝を打倒し世界革命に進撃することができるのか。

日帝は、防衛費をGNP比1%枠という従来の制約をとりはらい「防衛力整備五カ年計画」というペテンでとめどない軍備増強を行なわんとし、他方、教育臨調や教科書への日帝の介入を通じてファシズムの育成をねらっている。日帝—ブルジョアジーのふりまく、不況から好景気への転換は、世界資本主義の矛盾の解決ではなく、資本主義の危機の先送りでしかない。この矛盾は、必ず極限にまで達せざることをつきつけ、国際主義をもちこむ以外にどうして日帝を打倒し世界革命に進撃することができるのか。

既成左翼は社会党に典型なように「保革連立」になだれこみ、また総評も労戦統力をうちらだく圧倒的な労働者階級人民の隊列を登場させねばならない。労働運動の戦場に階級的労働運動の火柱をうちたて、学生運動のなかに階級性をもちこまねばならない。それらをプロレタリア社会主義革命を担う部隊としてまとめあげることこそ、緊要かつ重大なたたかいである。右翼日和見主義、急進民主主義との党派闘争にうちかち、不抜の中央集権非合法党と「武装せる革命の伝導路」を建設しなければならない。

共産主義者同盟全国委員会に結集し、プロレタリア政治闘争の先頭にたて！

八〇年代に入つて広範なひろがりと高揚を示しはじめ、ひきつづき持続する反核運動を階級的に領導することは、すべての革命的プロレタリアートの共通の任務である。革命的プロレタリアートはこの任務をはたすために、反核運動内部にいたるプロレタリア階級闘争の前進のため

広島・長崎への原爆投下から四〇周年を迎えた、史上初の被爆国であるわが国においても反核運動の高揚がふたたび開始されようとしている。

国際的にもニュージーランド・ロンギ政権の米核艦船の入港拒否や、アイスランドにおける同様の事態などもふくみながら、核戦争にたいする危機意識に根ざした反核運動は、依然、全世界に広範に存在しつづけている。アジア諸国でもフィリピンや韓国などで、最近、反核や反原発運動が急速に成長していることが伝えられている。まさに反核運動は地球上のすみずみにまで浸透しつつある。この運動の客観的意義は何か。

反核運動は、ますます激しさを増し、年々大規模になる米ソの核軍拡競争（米帝・レーガンの宇宙空間を戦場と化すSDI）戦略防衛構想を見よ）、主要資本主義諸国に慢性化する失業問題などの生活危機、あるいは環境破壊など資本主義の蓄積された諸矛盾などにたいする被抑圧人民諸階層の不安や不満の反映である。それらが反核という軸に統合され、ひとつの政治運動として世界各国で組織されていく条件をこの運動は内包している。これが反核運動の客観的意義である。

しかし反核というスローガンそれ自体は、ブルジョアジーですらときには好んで口にする。反核運動はブルジョアジーの側にとりこまれていく危険に常に包囲されている。プロレタリアートはこの運動の内部に鮮明な階級的分岐を組織し、ブルジョアジーとの階級協調をはかろうとする部分を批判・暴露し、そうすることでのこの運動を、資本主義・帝国主義にいたるプロレタリア階級闘争の前進のため

① 反核運動にたいする労働者階級の基本的態度

八〇年代に入つて広範なひろがりと高揚を示しはじめ、ひきつづき持続する反核運動を階級的に領導することは、すべての革命的プロレタリアートの共通の任務である。革命的プロレタリアートはこの任務をはたすために、反核運動内部に

ペテン的核廃絶論をふりまく 日共の反階級性を暴露せよ！

—— 反核運動の階級的領導のために ——

おけるさまざまな日和見主義、誤りとたたかわねばならない。

ここでは主要に日本共産党の核問題にたいする誤った政治的主張をとりあげ批判を加えたい。

に大いに役立てねばならない。問われているのはプロレタリアートがその階級的本性にもとづく他の被抑圧階級層にたいする指導性を、この運動内部で十分に發揮することである。

このような国際的な広がりと課題をもつた運動の代表例として三〇年代の反ファシズム運動があげられる。

ヨーロッパを中心にして、かつて一九三〇年代には、スターリン・コミニルの影響下で反ファシズムのスローガンが国際階級闘争を席巻した。スターリン主義は、ファシズムにたいする広範な人民の反対の声を、帝国主義打倒へと領導するのではなく、英米帝国主義、各國ブルジョアジーをも共同行動の対象とした反ファシズム統一戦線（一九三五年、コミニル七回大会）という階級協調の戦術へと固定化した。結果、ドイツ、イタリア、日本のファシズムの敗北とひきかえに、米帝國主義による戦後の一元的世界支配を許し、そのもとでの独、伊、日の敗戦帝国主義の復活に加担したのである。スターリン主義の誤りは、反ファシズムのスローガンをかけたことそれ自体にあつたわけではない。このスローガンをブルジョアジーの打倒と完全に切斷し、ブルジョアジーを救済するスローガンにまで転落させたことこそ根本的誤りだった。

ところでも共産主義の名をかたつて、彼らと同じ役割りをはたしている部分が存在する。その最大の党派が日本共産党である。日共・原水協は反核運動にたいする見すごしえない政治的影響力をもっており、われわれは社会党や俗流市民主義者の誤りを批判すると同時に、日共の理論的・政治的誤りと激しく闘争せねばならない。

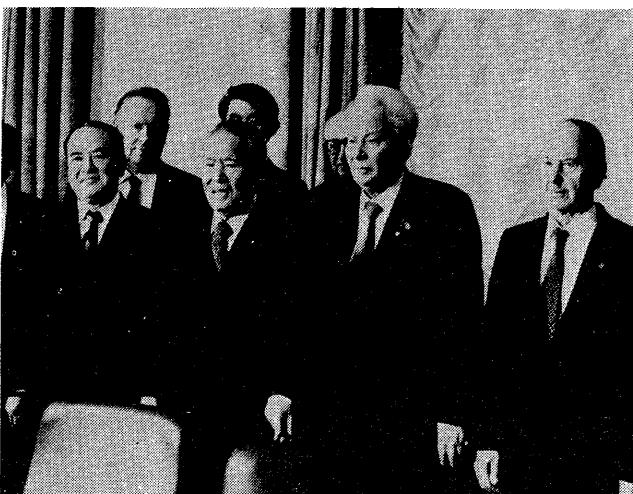
② 原水禁運動の分裂と



米核巡航ミサイルのベルギー配備に反対する
20万人のデモ（3月17日 ブリュッセル）

日本における反核運動は、一九五四年のビキニ事件（ビキニ環礁におけるアメリカの水爆実験によって第五福竜丸が被爆。乗組員二三人全員が被爆）をきっかけにして本格的にはじまり、翌五五年には広島で第一回原水爆禁止世界大会が開かれている。世界大会直後

烽 火



日ソ両党首脳会談（一九八四年二月一日）

に日本原水協（原水爆禁止日本協議会）が結成されたが、六〇年代に入つて原水禁運動は社会党系と日共系に分裂し、日共は原水協の指導党派としてこんちにいたつてゐる。六〇年代の原水禁運動の分裂は、六一年のソ連の核実験再開、六三年の米ソによる部分核停戦の締結、六五年の中国の核実験にたいする評価をめぐつておこり、六五年には社会党・総評が原水協に対抗して原水禁（原水爆禁止日本国民会議）を発足させて組織的分裂にまでおよんだ。

この分裂過程において社会党系が「いかなる国々の核実験にも反対」という立場をとったのにたいし、日共は中ソの核実験が米帝の侵略から身を守るために余儀なくされたものであるという態度をとり、「帝国主義の核戦争政策との対決」を主張した。またこの時期日共は、六三年の部分核停戦条約を契機にしてソ連共産党との対立関係に入り、「フルシチヨフの平和共存路線にたいして『帝国主義勢力とくにアメリカ帝国主義にたいする無原則的な譲歩と降伏の路線』と批判した。

しかし、その後日共は、中ソの核政策はすべて無条件に防衛的なもの、余儀なくされたものとはいえず、むしろ核軍拡競争の悪循環の一環をなしてゐるという現状認識を理由に「米ソ、中をふくむすべての国の核実験に反対しその中止を要求する」（「眞の平和綱領のために」八一年）という、実際上かゝつての政敵と同じ立場に転換した。

六〇年代における原水禁運動をめぐる社共論争は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、階級闘争にとつて意味ある成果は何ひとつ生みださなかつた。逆にこの過程をおして日共は旧来の彼らの主張をも投げ捨てて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上何ら変わらないブルジョア平和主義者として現在の日共の核問題にたいする最新の態度は、昨年来の宮本の訪ソ、日ソ両党首脳会談、日ソ両党共同声明に關する彼らの主張を通じて、社会党、総評、原水禁ブロックと本質上の転落と鈍化をとげていくのである。

(3)

資本主義のもとでの
核廃絶可能を説く日共

レーニンはその著「プロレタリア革命の軍事綱領」（一九一六年）において、戦争の消滅、軍備撤廃について次のように提起している。「われわれが一国だけではなく、全世界でブルジョアジーを打倒し、完全にうちやぶり、収奪したのちはじめて、戦争はありえないものになるであろう」「プロレタリアートは、ブルジョアジーを武装解除したのちにはじめて、自己の世界史的な任務を裏切ることなしに、武器をスクラップにすることができるのだ。」だがそのままでなく――たしかにそうするであろう」

これがマルクス主義者の基本的見地である。ところが日共はこれを否定するために、核戦争と核兵器に関しては特別であつてこの原則は適用されないと、いうのである。宮本は前述の講演において次のように主張している。

「世界の軍備というのは、一般的には、資本主義がある限り、結論からいえばなくならない。しかし核兵器というのは特別殘虐な、人類皆殺し兵器です。戦場にならなかつたところでも、核の冬によって人類文明が破壊される。これがいま常識になつてゐる。この

「反核の運動、核兵器をなくす」という運動は、単なる反帝闘争ではないということです。要するに、帝国主義がすべて悪い、だから帝国主義反対の人びとを結集する、逆にいえば社会主義賛成の人ならもつといつてよい。そういう世界の体制で分けるような運動ではないということです。もちろんアメリカにも核兵器をなくすという人はいっぱいいるし、レーガン大統領自身も一再ならず核兵器をなくしたいといつてゐる。彼がこれに本当に賛成するなら、彼は反核勢力の立場に立つわけです。とくにソ連はいま、米ソ会談をやって、アメリカの胸の内を聞きたいと言っている。私たちもレーガン大統領に呼びかけた。こういう段階のなかで、レーガン大統領のタカ派的な面だけを固定して、これだけがアメリカの核問題を貫いている。変わらない態度なのだと、ということをしない。そういう核兵器をなくしたいといつてゐる。彼がこれに本当に賛成するなら、彼は反核勢力の立場に立つわけです。とくにソ連はいま、米ソ会議題にしばつておこなわれた。」

核問題をテーマにして会談がおこなわれ、共同声明が採択されたのであるが、この共同声明を日共は本年五月号の「前衛」において次のように意味付与している。

「昨年十二月十七日の日ソ両共産党共同声明は核超大国の一方の当事国であるソ連の政権が『核戦争阻止、核兵器全面禁止・廃絶が』世界政治全体における中心課題とみなす」と合意し、そのため実効ある方向をさせしめた点で歴史的意義をもつた。すなわちもう一方の当事国であるアメリカのレーガン政権が核廃絶の意志さえもてば、国際政治のうえではじめて核兵器廃絶への具体的展望がひらかれ、人類は核の脅威から脱却できる条件がきずかれたのである。あとはレーガン政権にその政治的意図をもたらせるかどうかである。日本共産党は周知のよう宮本議長がレーガン大統領に書簡を送るなどアメリカにたいしても核廃絶を直接訴えている」

要するに日共はソ連共産党が核廃絶に合意したとして、鬼の首でもとつたかのように誇張しているのである。しかし、ソ連共産党の基本的立場は、帝国主義との闘争の原動力を国際階級闘争の発展に求めることを拒否する核抑止論であり、これにもとづく際限のない核軍拡競争にある。核廃絶の主張は対米対抗上大義名分として利用しているにすぎない。百歩譲つて文面どうり「核廃絶が世界政治全体における中心課題」であることが真に合意されているのなら問題はないのだろうか。いやむしろわれわれは共産主義を潜称して、このような小ブル的なテーゼが宣伝されていることを問題にせねばならないのである。国際プロレタリアートの当面する中心課題は、国際帝国主義の打倒、ブルジョアジーの世界的掃討、世界プロレタリア独裁の樹立であり、その勝利の結果としてのみ核兵器の廃絶ははじめて可能なのである。

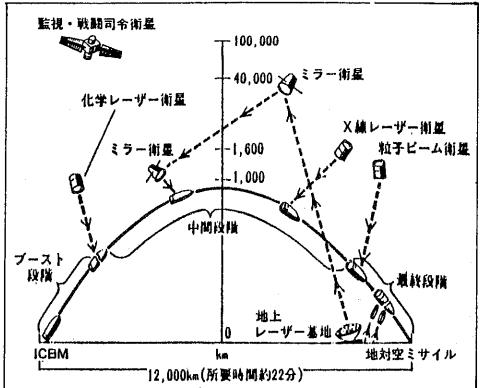
また日共は核戦争の防止や核兵器の廃絶などを課題が、階級闘争ではなく、逆に階級協調とブルジョアジーの政策に依拠して実現できるというペテンをふりまいてゐるのだが、この点は、ソ連から帰國後、宮本頤治が「核兵器廃絶への道を語る」と題しておこなつた記者クラブでの講演のなかで、より露骨に展開されている。次のような発言がある。

1985年7月20日

烽火

ときに、軍備一般ではなく、少なくとも核兵器は、この人類の力によって、知性によって取り除くことができる。社会主義の立場からみても当然そののだ、という前提でわれわれ（日ソ両共産党）の認識は一致したわけです」と。

このような主張は日共にあっては「大量殺人兵器を通常兵器と切りはなしで廃止するといふ科学的社会主義」なる一つの理論にまで高めあげられている。通常兵器をふくむ軍備全廃は不可能だが、核兵器だけは現体制下でも廃絶可能であるとする考え方はいったい科學的なものなのだろうか。否である。核兵器もまた一つの兵器であり、ブルジョアジーにとってそれはプロレタリアートを支配し鎮圧するための軍事的武装の手段であり、この点では何らその他の兵器とかわるところはない。むしろ核兵器はその破壊能力の大きさにおいて他の兵器にまさっており、核兵器にかわる兵器が出現しないかきりブルジョアジーがみずからこれを放棄することはありえないのは当然である。資本主義・帝国主義のもとでは軍備全廃は不可能であるのとまったく同じ理由で、資本主義・帝国主義のもとでは核兵



核軍拡にいつそう拍車をかける米帝のSDI構想

器廃絶も絶対に不可能なのである。
核廃絶可能な科学的根拠は日共によつて何ひとつ示されてはいない。彼らが根拠らしきものとしてあげているのはただ次のことがである。すなわち核兵器は人類絶滅兵器であり、人類全体を死滅させかねない兵器の廃絶には、いくらブルジョアジーにいえども賛成するだろうという勝手な思いこみだけである。このようないいづれかの構想があつたてわれわれは許してはおけない。米帝・レー・ガン政権の限定核戦争構想や、戦域核II巡航核ミサイル・トマホークの配備などは、実際に核を使用するための準備ではないのか。戦略核の増強の一方で米帝は、局地的にねらいを定めて核を使用でき、けつして米本土に被害をおよぼさない核兵器、核戦略の開発を他方ではすすめているのではないか。「ベトナム戦争でアメリカが犯した最大の誤りは核兵器を使用しなかつたことだ」という総括が米ブルジョアジー内部に根強く存在しているように、ブルジョアジーがたとえば朝鮮半島で、中米で、中東で核を使用する可能性はむしろ高まつてさえいるのではないか。

「人類絶滅」の危険をおかしてもブルジョアジーは、彼らが必要と認めたときには核を使おうとしつづけているのである。

最後に、日共が現在の反核運動を実践的にはどこへもつていこうとしているのかに触れなければならない。整理・要約すればこうである。彼らは反核運動を一方では「非核・非同盟・中立の日本」創設運動へ、他方では「国際反核統一戦線」形成運動へ結実させることを提唱している。そしていずれも「政治上、思想上、信教上その他の動機によるいかなる差別もない、もっとも幅広い基盤にたつ平和民主勢力」（日ソ共同声明）を結集させるこ

とをつうじてそれらの実現を展望するとしている。

前者すなわち「非核・非同盟・中立の日本」なるものは、もちろんブルジョアジー打倒後の日本の姿を描いていたのではなく、ブルジョアジーとともにこのようないいづれかの構想の一環に位置づけられている。

後者すなわち「国際反核統一戦線」なるものは、彼ら自身も認めるように、前述したかつての反ファシズム統一戦線の模倣であり、その焼き直しにすぎない。彼らはこの国際反核統一戦線をもつて「核戦争がおこるまえに、全世界の人民を結集して、戦争の勃発自体を阻止する」と主張しているが、戦争の根源である帝国主義ブルジョアジーと手を結んで、どうして「核戦争を阻止する」ことができるのだ。

以上みてきたように、日共は六〇年代の原水禁運動の分裂以降の過程を通じて大きな転換をとげ、こんにちでは社会党顔だけの反階級的な主張と行動をおこなつていているのである。

われわれはこのようないいづれかの反核運動の一角を占め、プロレタリアート人民に日々誤った思想を注入しつづけている現実を直視し、この構造を変革するたたかいに起らあがらばならない。

共産同（全国委）に結集せよ！

「政府への参加・介入」は社会主義の道かする「ニューソ社会党」

六月一日、社会党は現綱領と労働者階級の利益を露骨にブルジョアジーに売りとばそうとするもの会主義への道」を捨てたり、それ

にかかる「新宣言」を発表した。

革命的プロレタリアートは、す

社会党路線に
正面批判を！

主義社会であること、このなかで労働者階級は、資本家階級とその国家に支配され従属させてい

ること。労働者階級と資本家階級は非和解であること。社会主義とニュー社会党の路線のもたらす内容に關してである。「人間解放は、労働者階級が政治権力を握り、現実の反労働者性とたたかってきをめざして一步一步前進すること

もとにおしすすめられてきた反労働者性的路線を公然と追認するものであるとともに、この路線に対すであるとともに、この路線に対する様々な抵抗をおしつぶし、労

ねばならない。

わが現在住んでいる社会が資本主義社会であることをより深くおしすすめるために、この「新宣言」を真正面から批判しつくさ

新宣言」は言う。ここには、われわれが現在住んでいる社会が資本主義を

その上で社会党は、資本主義を

肯定し、その部分的な欠陥を手直ししていけば社会主義にいたると欺くのである。これは歴史的には古くからあつた「改良主義」の立場に他ならない。

どのようにして実現していくのか、
に關してである。第一の根本的調
りはここにも表われてくる。「新
宣言」は、それを「政府への抵抗
ではなく、参加・介入を」「政治
意識の多様化のなかでは、連合政
権はふつうのことである」とのべ
て、従来の「社公民連合政権」から一
歩のりだし、自民党をも含む「保
革連合」に進むことを公言してい
る。「参加・介入」とは、労働者階級を
階級の力を背景にして労働者大衆を
や小ブルジョアジーを糾合してい
く戦術ではなくて、労働者階級を
思想的に武装解除し、ブルジョア
ジーに融合させていく方策として
いわれている言葉であり、そのあ
らわが保革連合政権というわけ
なのである。一九五五年に決定さ

れた社会党綱領すらそれ 자체、正和革命論の誤りをもつとはいえ「革命なしに社会主義実現は無理である。革命は暴力をもちはず、議会で絶対多数をしめる。日常鬭争は、社会主義社会実現のための「一つの過程」と言っていたことからみても、今回の「新宣言」に示されるようにその変質ぶりは明らかである。

批判の第三は、党の性格・任務

は崩壊し、ブルジョア
的に階級関係を再編し
この情勢のなかで社会
まり、ほり崩されてき
ますますブルジョアジ
家にすりより延命しよ
たのである。革命的プ
ートは、一九五〇年代
このような社会党、他
共産党を批判し、プロ
トの眞の革命党に結集
てきたのである。

紅緑白な桜井

最後に、かかる「新宣言」の背景についてみておかねばならない。「新宣言」は現下の全民労協の右翼的労働統一の動向に深い根をもつてゐる。基幹大産業のプロレタリアートを支配している彼らは、「合理化推進—企業防衛—国家防衛」をうちだし、日本資本主義の危機救済のパートナーとしての役

革命的プロレタリアートは、社会党の「新宣言」が資本主義擁護、帝国主義主要路線の承認であり、その根柢が、階級と階級闘争の否定にあることを鮮明に批判するとともに、労働者階級人民の眼前にこの社会党の反階級性をつきだし反社会党の鮮明な分岐をかちとらねばならない。ただかう労働者は全國行政に結集せよ。

六月二十四日、京都労働者実行委の主催による「反戦・反安保・国際連帯京都総決起集会」は、五百名の労働者、学生、市民が結集し、京都産業会館シルクホールで行なわれた。

られた（別掲）。FSLNからの革命的あいさつは、国境を越えて参加者全員の共感を呼ぶ。ついで三菱重工長船労組からのメッセージが訴えられる。「三菱独占と同盟御用組合幹部の攻撃に抗して反戦・反モロニ貫徹」といふ。

ことが暴露され、全民労協反対、階級的労働運動建設が熱烈に訴えられた。山田氏は、総評が全民労協、国家権力の一体となつた戦闘的労組弾圧を許していることを批判し、そして中曾根政権のブレー

「たかうこと」と主張し、反核・国際連帯を提起した。

京労実闘争に五〇〇

FSLNから連帯のメッセージ（表紙に掲載）

六月二十四日、京都労働者実行委員会の主催による「反戦・反安保・国際連帯京都総決起集会」は、五百名の労働者、学生、市民が結集し、京都産業会館シルクホールで行われた。

広島、長崎に原爆が投下されて四十年、日米安保改訂から二十五年、そして、日韓条約締結から一〇年というこんにち、帝国主義による侵略戦争とファシズムへの道か、それともプロレタリア階級の解放をかけた侵略戦争阻止、国際連帯への道かがわれわれに問われている。

ことが暴露され、全民労協反対、階級的労働運動建設が熱烈に訴えられた。山田氏は、総評が全民労協、国家権力の一体となつた戦闘的労組弾圧を許していることを批判し、そして中曾根政権のプレーントと全民労協幹部の定期会議による労働者弾圧の策動を暴露した。

「労働者は、こういった戦争の準備に心底怒らなければならぬ。

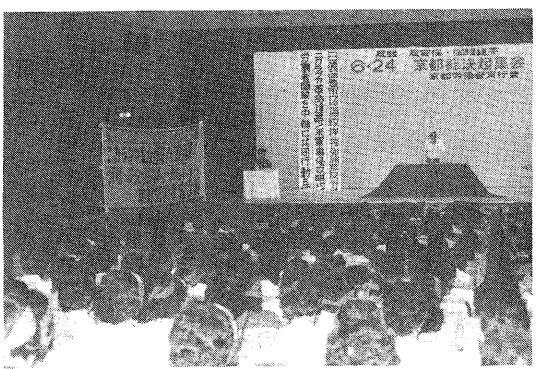
つた問題をひとつひとつ反対した
たかうこと」と主張し、反核・国
際連帯を提起した。

発言はこのあと、プロレタリア
行動委(準)、関西ラテン・アメ
リカ研、部落解放北区共闘会議、
洛南労組連とつづいた。

集会は、次に五・二八狹山特別
抗告審棄却に対する弾劾の特別決
議が採択され、最後に「国境を越
▲六・二四闘争を索引する劳政
◆つめかけた五〇〇の参加者



◆つめかけた五〇〇の参加者



日本最南端の軍事空港獲得をねらう日帝の新石垣空港建設阻止のたたかいは、自保現地住民と支援労働者人民によつて断固として拒まれつづけている。

いうち的なテロ・逮捕など凶暴性を強めつつ、「今年度内着工」を宣言し、本格的な着工攻撃にのり出してきている。そして「年度内着工」にむけた公有水面埋めたて申請が、この七月県議会で強行採決されようとしている。これに対して白保住民と支援は、七月五日からそれを離島苦にあえぐ住民の願い新石垣空港は、現空港の軍事基地転化、新空港の軍民共用化として目論まれてているのであり、軍事基地建設そのものに他ならない。

7·5~9

新石垣空港建設阻止せよ

一一〇 時間ハンストに連帶し



元モを行なう「保育風と支援」(七用七田)

東支部、洛南戰勞研の労働者からアピールがなされ、とりわけ洛南合同労組の仲間からは組合つぶしとのたたかいの報告と、「地域の仲間とともに革命までの階級闘争をになつていく」との表明が行なわれた。そして全国労政は「社会党共産党に追随し帝国主義のあれこれの政策変更要求にとどまつて、いる市民主義的政治闘争ではなく、大衆的プロレタリア政治闘争建設が何よりも重要である。資本主義の廃絶とプロ独権力の樹立、新た

運動建設が求められている」と訴えた。

一時からの全体集会では、三里塚反対同盟をはじめ韓民統や各地の市民団体からの発言、またニュージーランド、フィリピンで反戦反核をたたかう仲間からの発言が行なわれた。この後、渋谷・宮下公園までのデモが貫徹され、京労実の総括集会では、東京東部労組からの発言を受け、六・二四京労実集会を全力でたたかうことが確認された。

六月十五日、反安保・日朝連帯大阪集会が国労会館において、六・一五集会実行委のもとに三〇名の集結をもってかちとられた。社共の排外主義ときっぱり決別し、国際主義の旗のもと「安保粉碎、日帝打倒」のたたかいを基調に、学校労研、自治労有志、関西学生連絡会、洛南合同労組、喜志小事件を考える会、電通労政、プロレタリア行動委（準）などから六月闘争に向けた固い決意表明があつた。

沖 繩

六月一六日、明治公園において「日米安保はいらない！アジア太平洋民衆とともに！六・一六全国行動」が三千人の結集で開かれた。全体集会に先だち京都労働者実行委の前段集会が行なわれた。こ

なインター創建に向けてたたかおう」と熱烈にアピールを提起した。また当日、京労実の部隊に結集した日大全文理連絡会議（銀ヘル）の学生は、「抑圧民族としての差別性、排外性を解体し、プロレタリ

6・15 大衆的政 治統一 社共の排外主義と 拍手でむかえられ発言にたつた

明治公園に三〇〇〇

東京

との集会宣言が満場の拍手で採択され、割れんばかりのシュプレヒコールが会場にこだまし、戦闘的デモが京都の目抜き通りを席卷した。

「反戦・反安保・国際連帯・地域共闘推進」をかけた七・四タカラブネ労組神戸支部決起集会が、地域の労組の参加もふくめて二五〇名の結集でたたかわれた。集会前段に、ソモサ打倒にたちあがったニカラグアの労働者人民のたたかいのスライドが上映されたのち、「神戸支部ではじめての地

ノネ労組神戸支部

神

域の労組、団体の方々の参加による政治的課題をかけた集会を全員の力で成功させよう」という開会宣言がなされた。集会には、金兵庫地本甲南高周波支部・全金神戸発動機支部・全金神港精機支部・モロゾフ労組西神支部・ゴンチャラフ労組などが連帯にかけつけ、今年四月に階級的労働運動を兵庫の地でおしすすめんと結成さ

6・ 大衆的政治統一戦線建設を確認

大阪



電通労政の同志は「現下の民営化攻撃－労働者意識の解体攻撃とたたかうとともに、大衆的政治統一戦線の建設を大阪において主体的にになっていく」ことを明らかにした。

集会に結集した諸団体とともに、六・一五実行委のきりひらいた大衆的政治闘争を発展させねばならない。社共排外主義と分岐した労働者の大衆的政治統一戦線をこの大阪において建設することは先進的aproにとって急務である。

えて労働者が国際的に手を結びあっていくことがいまほど必要な時ではない。労働者階級を中心とした共闘の輪をさらに広げ、私たちのたたかいをさらに発展させよう」

兵庫で初のニカラグア連帶集会
大衆的政治統一戦線の突破口に！

タカラブネ労組神戸支部

神

労政の同志は、ニカラグア革命への連帶は、労働者にとって当然のたたかいであること。また右翼的労戦統一に抗して階級的労働運動の陣型を構築せねばならないこと

の現在的復権を目指して八二年七月に結成された。

地域春闘総決起集会(四月九日)

八〇年代に入つて急速に頗在した右翼的労戦統一の動向を背景にして、これへの批判をバネに、総評左派の全金京滋地本規模別共闘の各支部、独立単組のタカラブネ労組を中心核組合に、自治労の一部事務組合、活動家団体を集め出発したのである。

次のいくつかの条件があった。第一に、京都の労働運動の一般的な情況があげられる。当時から現在もつづく、京都地評の休眠状況（当初は社共の対立・主導権あらそい

後には労戦統一問題をめぐる对立の顯在化、地評の機能停止状況)は、地区労形形骸化させ、社共によって系列化され、地区労運動がまつたく空洞化していた。このよくな状況下にあって、従来の地区の総評指導系列は崩壊しており、単産・単組の自主的判断・裁量がそれ以前と比べて比較的自由であった。さらに京都の労働運動は、京都市内からの工場転出によつてより南部に全金規模別共闘もふくんで民間の労働運動の拠点を移していくことである。

たタカラブネ労組の成長と定着化である。正社員一パートの単一組合として当時五〇〇名の労組の出現と地域との交流の開始は、労働安全交流会などの課題を通じて地域に一定のインパクトを与えていた。

第三は、企業を越え、地域的には、度経済成長の終えんと、春闘の連敗のなかで先進的労組・活動家のなかで展望されんとしていたことである。全金規模別を中心とした中小資本下における労働組合は、各支部の規模が小さく、必然的に支部を越えた取りくみが要請され、数年にわたる戦闘的労働運動の実践の経験をもつっていた。しかしこのたたかいは、日本経済の危機として、中小企業の再編のなかで、企業ごとのものの存続の問題や、労働条件の切り上げ攻撃にあり、それを主とするべき総評労働運動の解体に直面し、次のたたかいの方向を模索していたのである。

左派」活動家が、労組指導能力の未訓練のため有効な力を労働戦線の流動に對して發揮しえていない状況のなかで、この洛南合労のたたかいと教訓は全国の活動家にとって重要なものである。

成果と今後の課題

右翼的労線統一に対して批判結集し、総評労働運動の正の遺産たる地区労運動を継承してきた洛南労組連は、前述の如く単に地区労

それは何よりも戦後労働運動の根本的転換点に際しての「地域共闘」組織が客観的にもつ意義と、総評労働運動の残滓の混在の中での「階級的労働運動の発展」という課題を正面から見え、牽引してゆく指導的努力の結果に他ならなかつた。

域共闘組織が新労組の結成とその攻防の中で発展し、かつ直面している資本のまき返しのなかでの地域共闘組織の強化を打ち出すものにおいて八五年前半期方針を「防衛から攻勢へ」として立てた。地域共闘組織が新労組の結成とその攻防の中で発展し、かつ直面している資本のまき返しのなかでの地域共闘組織の強化を打ち出すもの

であった。それは結成後三年目に

われわれは現在の日本労働運動

あたり次の大きな発展を築き上げることもある。「労戦統一」は、全民労協の「連合体」施行の遅れに示されるように、「二二」の大好きな山場を残している。そわは一つには官公労の最終的解体と

あり、その基礎としての階級的勞

分裂と変質を軸とした政党再編である。かの「八〇年代全般的統一」をぶちあげた全電通の「統一方針」にもあるように事態は進むである。このとき我が地域共闘は一人枠外にいるわけではない。全民協議の地方版は今、実質受け皿が準備されているし、各単産内の動搖

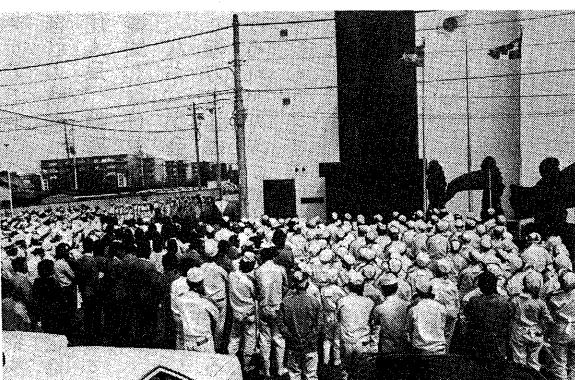
形の構築、その現在的課題として、階級的労働運動の基礎陣形の

い課題の一つがこの三年間で作り上げた成果に立ち、重層的な地域での組織強化にあると考えている。受け皿の原型は準備された。洛労連は意識的意図的にかつての総評の運動構造の諸ルートをつか

結合させてゆかねばならない。

はならぬのである。労組とその連合体が社会的組織であり、その成立基盤がより一層多面的で重層的なものになる必要がある。やがてくる次の分解にそなえるためにである。洛南労組連は、その組織の中核である自立労連が独立労連となり既成の労働運動の束縛から比較的であるがためにその設立の当初より既成の労働運動の束縛から比較的

に大きく地域を拡大し、組織をせんたくするためにはこの条件に居住せず、もしろ既成の諸関係に積極的に介入し、より多くの多面的な活動をくりださなければならない。



組合つぶしとたたかう自立労
連タカラブネ労組